今、新潟を語ろう

日本海の夕日はすごい

小熊　英俊さん　●「月刊にいがた」編集長

〝だから新潟が好きだ〟の名キャッチフレーズで若者の心をガッチリとつかんでいる「月刊にいがた」の若き編集長。若者の組織づくりにも積極的で商売のワクを超えて若者文化にかかわっている。33歳。

①米。新潟海岸。特に秋の夕日の落ちる時刻は素晴らしい。日本海、信濃川などに象徴されるように水（川、海）。
②結婚したことかな？
③プラス。出張が大変楽になる。また、個人的にも気軽に東京へ出かけられるので、用事のある時など大変便利。
④特別考えていません。
⑤日本海に沈む夕日の美しさ。これは、〝カナダの夕日〟に比すべき素晴らしさでは…。
⑥人の意識が変化してくるのが第一。町や文化などが変わるのは徐々にでしょう。いずれにせよ小東京化するのではないでしょうか。
⑦人間や動物を含めて、個性的な街になってほしい。その東京へ出かけられるので、用事のある時など大変便利。
⑧世の中に必要となる企業づくりをしていきたい。

秋の夕日が好きだ

夕日を売り込め

鶴木　秀司さん　●新潟青年会議所理事長

新潟生まれの新潟育ち。鶴木株式会社（繊維総合卸売業）専務。青年会議所のリーダーとして〝魅力ある新潟市づくり〟に当たる。36歳。

①魚類。海岸（佐渡に沈む夕日を見ること）。個性がない代わりに住み良い町。
②学生時代、家内と四十日間ヨーロッパ一周したこと。
③両刃の剣。本人の対処の仕方次第です。プラスにしなければいけませんね。プラス面はいろんな情報が入りやすくなるし、持つてきやすくなる。
④出張に大いに利用します。友人、親類の人に気軽に来てもらいたい。
⑤日本海の夕日、新潟人の人間味、食べ物類（米、魚、酒）ほかにスーパードームなどを造って、各種イベントができる都市で売り出すべき。
⑥中核都市としての機能が増す、東京志向型が強まる、人の往来が増す、ファッションのグレードアップにつながる。新潟色が薄れる、商売上競争が激化する。
⑦新潟の人情味を残しながら、日本海の夕日、信濃川、阿賀野川など、水という自然を活かし、国際的な感覚を持ち、多くの人が交流できるような都市づくりをしてほしい。
⑧世の中に必要となる企業づくりをしていきたい。

ローカル色を出して

江口　百世さん　●劇団「由」主宰

劇のプロデュースから脚本書き、演出、舞台装置、主役と、1人で何役もこなすすごい人。34歳。

①米と水（日ごろ一番何ともいえない。田植えや稲刈りを体験できるローカル色豊かな観光プランがほしい。
②生まれてきたこと。
③（④を合わせて）時間が短縮されるのはプラスだが、運賃が上がるのは困る。すべての分野で東京に対抗しようという感じが出る可能性がある。
⑤今やっているキャンペーンはイマイチで、旅行者として新潟へ来たいと思わない。売りだすためには、食べ物と何かが必要だが、その何かがない。田植えや稲刈りを体験できるローカル色豊かな観光プランがほしい。
⑥きちに中都市化される。新潟島が隔離となっていくのが心配
⑦みんながいい町だと思える町に。その素質は十分あるのに気づいている市民は少ないのでは…。
⑧芝居専門のホールで、しかも客席を自由に移動できるホールができて、そこで演じてみたい。

個性のある町に

小島　正夫さん　●日本交通公社新潟支店長

長野県に生まれ、東京、埼玉など関東地方の勤務を経て、今年6月、大宮から新潟へ単身赴任。もっか新潟を全国に売り込もうと戦略を練る。50歳。

①米。海岸。活気がない。いい意味では非常に落ち着いた感じ。
②七歳の時北京に行き、七年間住んでいたこと。
③商売上ではプラス。太平洋と日本海が近くなったから。各企業とも経済的には非常にプラスでしょう。ただ、観光面では、新潟は素通りされる可能性も…。
④単身赴任ですから往来にとても便利です。仕事上の会議などにも大いに利用します。
⑤コシヒカリ、地元の酒、刺し身、それにプラス何か。例えば新潟まつりの花火なら花火を、大々的に売り出すべき。
⑥変わらないと思う。近郊の温泉地などは若干変わると思う。
⑦新潟駅は暗く、観光するムードがない。もっと観光ムードを盛り上げる町にしてほしい。
⑧都会はあまり好きでないので、こちらで土地でも買いたいですね。

活気がほしい

東京沖縄はやめて

長野県生まれの東京育ち。クラシックの勉強のため、アメリカにも渡り、5年前新潟へ来港。現在自宅で毎月音楽会を開いている。37歳。

小西奈雅子さん　●日本女性作曲家連盟代表

①米、魚、大根。西海岸公園。
②新潟に来る前にアメリカにいて作品展を開き好評だったこと。
③時間的にはプラス。経済的にはマイナス。そして景色を見ながら旅行できる楽しみがなくなる。
④中央で開かれる音楽会に行きやすくなる。ただし演奏会の終了が午後九時ごろなので最終便が早すぎる気もする。
⑤夏の新潟。若い人を呼ぶミュージックキャンプの企画。
⑥東京との交流が増える。物質的に豊かになるが、神神的にどうなるのか心配。
⑦君達と同じ町には なってほしくない。東京迎合志向に走らないことを期待します。
⑧五頭山あたりに引つ込んで、今の家をプラス面が大でしょう。小さなコンサートホールにしたい。

今のままでいてほしい

水島　新司さん

新潟に生まれ、白新中学校卒業後上京。「ドカベン」「野球狂の詩」など野球漫画で売り出す。郷土〝新潟〟をひと一倍愛する。43歳。

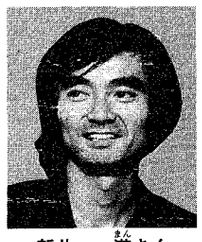
①ズキのみそ汁、東蒲楼のラーメン。白山神社。故郷以外の何物でもない。
②長男の誕生（二番目の出来事は次男の誕生）。
③もちろん大プラス!!　年老いた両親への親孝行のため、今まで以上に故郷が近くなったわけですから。
④両親への親孝行、肉親への交流充実。友人との近況報告。そして何よりもスランプ復活の地、とにかく生きる意欲、仕事への意欲に故郷はかけがえのないもの。
⑤一番身近に感じる物は「越の寒梅」の人気とコシヒカリ
⑥そう変わらないと思います。
⑦今の町のままで十分です。町は徐々に変わるものです。
⑧新潟に仕事場を持ち、行ったり来たりしたいですね。小さくともいいから、新潟に水島漫画館を造りたいですね。

新潟は魅力にあふれてる

インタビュー項目

①新潟で一番おいしいと思うものは何ですか。市内で好きな場所はどこですか。新潟〝のイメージは
②あなたの人生の中で今までに最も大きな出来事は何でしたか
③あなたにとって新幹線の開通はプラスですか、マイナスですか、具体的にお答え下さい
④新幹線の開通を、あなたは自分の生活の中にどのように活用していきますか（対策はありますか）
⑤新潟を全国にPRするには何を売り出したらよいでしょうか
⑥新幹線の開通で新潟はこれからどのように変わっていくと思いますか
⑦これから新潟はどんな町になったらよいと思いますか
⑧あなた自身の将来の夢をお聞かせ下さい

港町のイメージを売り出せ



新井　満さん

電通社員、「ポートピア81」の宣伝プロデュースを担当。シンガー・ソングライター、代表作は「ワインカラーのときめき」。他に新聞、雑誌にエッセイや評論を執筆。なんでも、しかも一流にこなすマルチ人間で現代のスーパーマン。実家は磯小学校のすぐ前。36歳。

①笹だんご。寄居浜の坂口安吾の碑のあたり。雪国。
②特急、とき号の車内で、偶然妻となるべき人と出会ったこと。
③プラスでしょうねえ。故郷が近くなったのだから。
④気軽に故郷へ帰ろうっと。
⑤港町のイメージ
⑥ミニ東京になっちゃいそう。
⑦ミニ東京にならないこと。
⑧隠居したい。

新潟の情緒が好き

小林　幸子さん

横七番町生まれ。栄小学校の時、古賀政男に見出され上京。「おもいで酒」の大ヒットで花開く。だれにでも好かれる明るい笑顔と新潟人の粘り強さで演歌を歌う。28歳。

①米、酒、水。佐渡と弥彦山が見える風景。海と雪のイメージ。
②昭和三十九年に歌手としてデビューし、五十四年に「おもいで酒」で、二十三個の賞を受賞したこと。
③大変プラスだと思います。
④仕事上大変楽になります。
⑤観光や佐渡
⑥交通のスピードアップによって、表日本と裏日本の交流がさらに一段と増して発展することと思います。
⑦新潟独特の情緒をなくさず発展してほしいと思います。
⑧息の長い歌手を目指し、〝幸子演歌〟を確立します。地味でも日本人の心を歌える―そんな歌手を目指して頑張ります。今後ともよろしくお願いいたします。

母なる信濃川

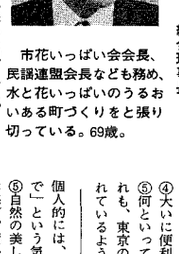
川崎　又吉さん　●新潟卸センター理事長

会社会長として、そして社会事業関係団体の役員として第一線で活躍。「仕事があるうちが健康」と、未だ若さも十分。84歳。

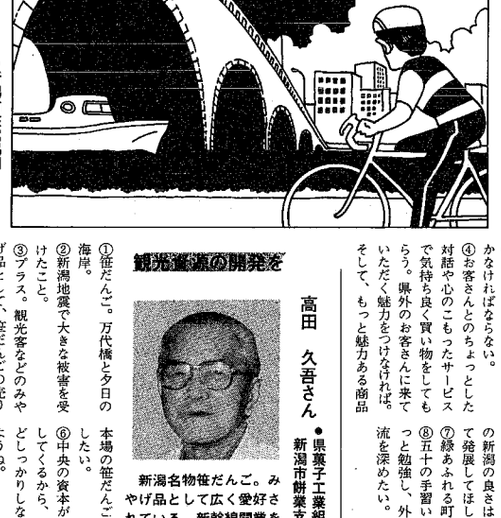
①魚。古町の中心街。日本海側の拠点都市
②新潟地震を契機に店舗を壊し卸団地に進出したこと。
③便利になり、業者も新潟に集まってくることから、町も活性化してゆきますね。まあプラス面が大でしょう。
④首都圏との競合に打ち勝つため秀れた機能発揮による経営戦略を展開しなければなりません。例えば配送拠点の増設や配送時間の短縮、品揃え機能の強化などを。
⑤現在のところ特に売り出すに値するものはありません。人を集めるには、やはり全国規模の展示がやれるスペースを作るなど、「これ」というものを作ってゆくべきですね。
⑥中央資本の事業所もでき、ビルマンションなどもふさがってくることから、活気をもってきますね。
⑦にぎやかで住み良い町にしたい。
⑧今さら夢でもないのですが、社会事業に今後も力を尽くしたいものです。

人を集める施設を

水と緑の都へ



田中　松一さん　●新潟市旅館協同組合理事長



市花いっぱい会会長、民謡連盟会長なども務め、水と花いっぱいのうるおいある町づくりをと張り切っている。69歳。

①米。万代橋と信濃川の風景。
②戦争。
③プラス。観光客が大勢新潟へ来ると思うから。
④大勢の人が来ることを積極的に事業に利用したい。旅館の良さを発揮する。しかし、個人的には、「そんなに急いで」という気もしますが…。
⑤自然の美しさ（信濃川と日本海）。素朴な人情。うまい物（酒、米、魚）。
⑥東京的な雰囲気の町になっていく。好まくくもあり好ましくもない。
⑦町かどに小さな噴水、滝を造り、その周りが花と緑で囲まれた町。
⑧仕事を通じて世の中に役立ちたい。

観光ルートの開発を

高田　久吾さん　●県裏子工業組合新潟市餅業支部長

新潟名物笹だんご。みやげ品として広く愛好されている。新幹線開業を控え、東京方面などに向け積極的にPR作戦を展開中。72歳。

①笹だんご。万代橋と夕日の海岸。
②新潟地震で大きな被害を受けたこと。
③プラス。観光客などのみやげ品として、笹だんごの売り上げ増大が期待されるから。
④大いに便利になる。
⑤何といっても笹だんご。それも、東京のデパートで売られているようなものでなく、本場の笹だんごを全国にPRしたい。
⑥中央の資本がどんどん流入してくるから、小売業はよほどしっかりしないと大変でしょうね。
⑦「新潟は見る所がない」と言われる。人が訪れるような観光都市になってほしい。
⑧仙台をライバルに、仙台に負けない町づくりをしたい。

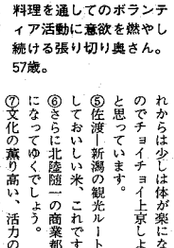
万代橋と信濃川がいい

加島　長作さん　●「加島屋」代表取締役

学校卒業後、東京の築地で修業。新潟の味を全国のお客様に届けている。48歳。

①米、魚、酒。万代橋と信濃川。雪にまつわる暗いイメージはない。
②敗戦と親との別れ。
③プラスになる努力をしていかなければならない。
④お客さんとのちょっとした対話や心のこもったサービスで気持ち良く買い物をしてもらう。県外のお客さんに来ていただく魅力をつけなければ。そして、もっと魅力ある商品を開発する。
⑤食べ物と人情。
⑥いろいろな意味で、新潟の良し悪しが評価される。指摘された欠点は直し、人情などの新潟の良さは基本的に残して発展してほしい。
⑦緑あふれる町に。
⑧五十の手習いで、英語をもっと勉強し、外国のかたと交流を深めたい。

新鮮な魚が食べれる



田中　孝さん　●主婦

「栄養と料理友の会」のサークル活動も熱心に、料理を通してのボランティア活動に意欲を燃やし続ける張り切り奥さん。57歳。

①新鮮な魚（特に南ばんエビ、カニ）。日本海の見える浜辺（護国神社裏）。万代橋
②三番目の娘がパラグアイへ開拓農民として嫁いで行ったことです。
③途中に降りることがないので早くなっただけプラスです（東京にいる長女の新居へ早速出かけようと思っています）
④東京での日帰りの講習会に参加することがあって、朝一番に行って最終便で帰ってくると随分と疲れましたが、これからは少しは体が楽になるのでチョイチョイ上京しようと思っています。
⑤佐渡―新潟の観光ルートをしておいしい米、これです。
⑥さらに北陸随一の商業都市になってゆくでしょう。
⑦文化の薫り高い、活力のある町がいいですね。
⑧料理を通じてのボランティア活動を幅広くやりたいです

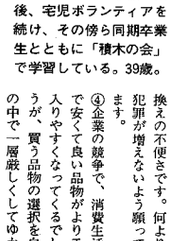
近代的な港町に

斉藤　久男さん　●フタバファッション代表取締役

新潟生まれ。フランスから手サンなどから呼び、多くの人がもデザイナーを呼び、週の広く仕事を進めており、生活東京にも店があり、東半分は東京で過ごす生活を送っている。53歳。

①十二月ごろのタラバガニと地の塩引き。新潟海岸。夏暑くて冬寒い。
②戦争中食べ物がなくて苦しかったこと。
③プラス。仕事の面で人間がより早く動けるようになり、物流が盛んになる。
④仕事の面で、仕入れ、工場見学などがやりやすくなる。
⑤クリーンな海とクリーンな空気。新潟にしかないものを売り込め。
⑥東京の企業が進出しやすくなり、企業のターミナルとなる。ファッションはより早くなる。
⑦天から授かったもの（信濃川、日本海など）をフルに生かし、近代的な港町、海岸都市になってほしい。
⑧新潟の女は磨かれていない素地の美人が多い。洋服でお手伝いをして、洗練された美人にしたい。

観光ルートの最適



梨本　洋子さん　●主婦

女の子一児のママ。公民館のゆりかご学級卒業後、宅児ボランティアを続け、その傍ら同期卒業生とともに「積木の会」で学習している。39歳。

①南ばんエビ、笹だんご、安吾の碑の丘から臨んだ佐渡と日本海。雪、鉛色の空、人情
②出産ですね（一「道」を語り継ぎ託す子ができたこと）
③いろいろの催し物が見れることはプラス面ですね。マイナス面としてはゆったりした旅ができなくなること、乗り換えの不便さです。何よりも犯罪が増えないよう願っています。
④企業の競争で、消費生活面で安くて良い品物がより手に入りやすくなってくるでしょうが、質う品物の選択を自分の中で一層厳しくしてゆかなければならないと思います。
⑤明治期の建造物を軸にした市内観光コース。
⑥文化交流が盛んになり、文化的には良いものに接することができるようになるのでは。子供たちを健全に育てる環境にある町になってほしい。
⑦乳幼児をかかえる母親を応援する活動を。子供と一緒に登山もしたいですね。

みなと新潟を大切に

港町のイメージ

新井　満さん

電通社員、「ポートピア81」の宣伝プロデュースを担当。シンガー・ソングライター、代表作は「ワインカラーのときめき」。他に新聞、雑誌にエッセイや評論を執筆。なんでも、しかも一流にこなすマルチ人間で現代のスーパーマン。実家は磯小学校のすぐ前。36歳。

①笹だんご。寄居浜の坂口安吾の碑のあたり。雪国。
②特急、とき号の車内で、偶然妻となるべき人と出会ったこと。
③プラスでしょうねえ。故郷が近くなったのだから。
④気軽に故郷へ帰ろうっと。
⑤港町のイメージ
⑥ミニ東京になっちゃいそう。
⑦ミニ東京にならないこと。
⑧隠居したい。

今のままでいてほしい

水島　新司さん

新潟に生まれ、白新中学校卒業後上京。「ドカベン」「野球狂の詩」など野球漫画で売り出す。郷土〝新潟〟をひと一倍愛する。43歳。

①ズキのみそ汁、東蒲楼のラーメン。白山神社。故郷以外の何物でもない。
②長男の誕生（二番目の出来事は次男の誕生）。
③もちろん大プラス!!　年老いた両親への親孝行のため、今まで以上に故郷が近くなったわけですから。
④両親への親孝行、肉親への交流充実。友人との近況報告。そして何よりもスランプ復活の地、とにかく生きる意欲、仕事への意欲に故郷はかけがえのないもの。
⑤一番身近に感じる物は「越の寒梅」の人気とコシヒカリ
⑥そう変わらないと思います。
⑦今の町のままで十分です。町は徐々に変わるものです。
⑧新潟に仕事場を持ち、行ったり来たりしたいですね。小さくともいいから、新潟に水島漫画館を造りたいですね。

新潟の情緒が好き

小林　幸子さん

横七番町生まれ。栄小学校の時、古賀政男に見出され上京。「おもいで酒」の大ヒットで花開く。だれにでも好かれる明るい笑顔と新潟人の粘り強さで演歌を歌う。28歳。

①米、酒、水。佐渡と弥彦山が見える風景。海と雪のイメージ。
②昭和三十九年に歌手としてデビューし、五十四年に「おもいで酒」で、二十三個の賞を受賞したこと。
③大変プラスだと思います。
④仕事上大変楽になります。
⑤観光や佐渡
⑥交通のスピードアップによって、表日本と裏日本の交流がさらに一段と増して発展することと思います。
⑦新潟独特の情緒をなくさず発展してほしいと思います。
⑧息の長い歌手を目指し、〝幸子演歌〟を確立します。地味でも日本人の心を歌える―そんな歌手を目指して頑張ります。今後ともよろしくお願いいたします。

観光ルートの開発を

高田　久吾さん　●県裏子工業組合新潟市餅業支部長

新潟名物笹だんご。みやげ品として広く愛好されている。新幹線開業を控え、東京方面などに向け積極的にPR作戦を展開中。72歳。

①笹だんご。万代橋と夕日の海岸。
②新潟地震で大きな被害を受けたこと。
③プラス。観光客などのみやげ品として、笹だんごの売り上げ増大が期待されるから。
④大いに便利になる。
⑤何といっても笹だんご。それも、東京のデパートで売られているようなものでなく、本場の笹だんごを全国にPRしたい。
⑥中央の資本がどんどん流入してくるから、小売業はよほどしっかりしないと大変でしょうね。
⑦「新潟は見る所がない」と言われる。人が訪れるような観光都市になってほしい。
⑧仙台をライバルに、仙台に負けない町づくりをしたい。

万代橋と信濃川がいい

加島　長作さん　●「加島屋」代表取締役

学校卒業後、東京の築地で修業。新潟の味を全国のお客様に届けている。48歳。

①米、魚、酒。万代橋と信濃川。雪にまつわる暗いイメージはない。
②敗戦と親との別れ。
③プラスになる努力をしていかなければならない。
④お客さんとのちょっとした対話や心のこもったサービスで気持ち良く買い物をしてもらう。県外のお客さんに来ていただく魅力をつけなければ。そして、もっと魅力ある商品を開発する。
⑤食べ物と人情。
⑥いろいろな意味で、新潟の良し悪しが評価される。指摘された欠点は直し、人情などの新潟の良さは基本的に残して発展してほしい。
⑦緑あふれる町に。
⑧五十の手習いで、英語をもっと勉強し、外国のかたと交流を深めたい。

新鮮な魚が食べれる

田中　孝さん　●主婦

「栄養と料理友の会」のサークル活動も熱心に、料理を通してのボランティア活動に意欲を燃やし続ける張り切り奥さん。57歳。

①十二月ごろのタラバガニと地の塩引き。新潟海岸。夏暑くて冬寒い。
②戦争中食べ物がなくて苦しかったこと。
③プラス。仕事の面で人間がより早く動けるようになり、物流が盛んになる。
④仕事の面で、仕入れ、工場見学などがやりやすくなる。
⑤クリーンな海とクリーンな空気。新潟にしかないものを売り込め。
⑥東京の企業が進出しやすくなり、企業のターミナルとなる。ファッションはより早くなる。
⑦天から授かったもの（信濃川、日本海など）をフルに生かし、近代的な港町、海岸都市になってほしい。
⑧新潟の女は磨かれていない素地の美人が多い。洋服でお手伝いをして、洗練された美人にしたい。

近代的な港町に

斉藤　久男さん　●フタバファッション代表取締役

新潟生まれ。フランスから手サンなどから呼び、多くの人がもデザイナーを呼び、週の広く仕事を進めており、生活東京にも店があり、東半分は東京で過ごす生活を送っている。53歳。

観光ルートの最適

梨本　洋子さん　●主婦

女の子一児のママ。公民館のゆりかご学級卒業後、宅児ボランティアを続け、その傍ら同期卒業生とともに「積木の会」で学習している。39歳。

①南ばんエビ、笹だんご、安吾の碑の丘から臨んだ佐渡と日本海。雪、鉛色の空、人情
②出産ですね（一「道」を語り継ぎ託す子ができたこと）
③いろいろの催し物が見れることはプラス面ですね。マイナス面としてはゆったりした旅ができなくなること、乗り換えの不便さです。何よりも犯罪が増えないよう願っています。
④企業の競争で、消費生活面で安くて良い品物がより手に入りやすくなってくるでしょうが、質う品物の選択を自分の中で一層厳しくしてゆかなければならないと思います。
⑤明治期の建造物を軸にした市内観光コース。
⑥文化交流が盛んになり、文化的には良いものに接することができるようになるのでは。子供たちを健全に育てる環境にある町になってほしい。
⑦乳幼児をかかえる母親を応援する活動を。子供と一緒に登山もしたいですね。